

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【鈴谷小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	漢字の読み書きや計算力等について、ICT機器の活用を含めたドリル学習が基礎力の定着につながっている。今後も継続していき、さらに漢字の意味を理解し、語彙力を強化するために、様々な活動の中で、実際に使用する場面を多く設定する。生活習慣の結果から低学年のネット利用時間の増加が見られ、読書時間の不足につながっている。さらに家庭とも連携し、読書活動の充実を図る。算数では、量感を身に付けるために、生活の様々な場面で実測したり、単位換算したりする場面を意図的に設ける。	
思考・判断・表現	学年が上がるとともに、自分の考えを自分の言葉で表現する力が伸びていることを継続していく。友達と意見を交流し合う、協力的な学習の場を確保し、自らの考えを深める授業を全学年で展開する。授業の共通認識のために、相互に公開授業を行い、研修等で各自の授業について改善を図る。自らの思考を表現するために、使える語彙数の増加のためにも、語彙力を高めるための対策を推進する。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方」「書くこと」 算数「数と計算」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。読書の量や量を学力につなげたい。	⇒ ・漢字の学習時には、漢字の意味を理解し、自分で考えた文や辞書を活用した言葉を練習する。【毎時間】 ・語彙力や表現力を高めるため6年間使用する読書ファイルを作成し、100選リスト等を活用した読書活動を行う。【週1時間以上】 ・ドリルやドリルパークの個別課題等を活用し、一人ひとりの課題に合った学習を進められるよう指導する。【単元に1回以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」 算数「図形」「データの活用」 <指導上の課題> 個に応じた指導を充実させていく必要がある。自分の言葉で表現する活動を十分に確保したい。	⇒ ・教科を問わず、自分の考えを表現する活動を充実させる。相手や目的意識を念頭に置きながら、ワークシートに書く、友達と意見交流する、学級で発表する等の時間を確保する。【毎時間】 ・様々なデータに触れる機会を増やし、データを読み取る際の視点を明確にし、自分の言葉で表現する等、授業の工夫改善を図る。【データを扱う単元毎時間】

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	年間を通して、漢字学習において意味を理解し、ドリルやドリルパーク等を日々、活用し、個にあった基礎学力の定着を図ることができた。全学年で推進している読書ファイルを活用した取組が定着し、図書ボランティアの読み聞かせや図書委員会による読書活動により、充実した読書活動ができた。教職員による「おすすめの本」等、自主的に本に親しむ機会を増やすことができた。
思考・判断・表現	A	年間を通して、教科を問わず、自分の考えを表現する活動を意図的に確保することができた。自分の考えを表現する際には、相手意識をもたせる、根拠を明確にする、自分の意図をはっきり伝える工夫等、具体的な手立てを講じたことで、課題に対して自主的に取り組む姿が見られた。さらに、語彙力を高めたり、データ活用を向上させたりすることで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語、算数、理科全ての教科において、全国平均値を上回る正答率で、よくできている。語彙や漢字の理解が定着しているが、同音異義語の使い分けに課題が見られた。引き続き、漢字の意味を理解し、文脈に応じた語彙指導を強化する。算数では、はかりの目盛りの読み方や角の大きさの理解に課題が見られた。教科にとらわれず、体験的な学習の中で積み重ねを図る。	
思考・判断・表現	国語では、話の内容を整理する力が育ってきている。一方で、聞く目的に応じた情報の把握に課題が見られた。対話活動を通じて聞く力の強化を図る。理科では、基本的な自然現象の理解が進んでいる。一方で、水の性質を根拠に予想・表現する力に課題が見られた。実験や協力的な学びの活動を工夫し、充実させていく。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	どの教科も概ね良好な成果が見られる。特に漢字の読み書きは確実に定着しており、学校や家庭で取り組んできたドリル学習等による反復学習が基礎的な学力の育成につながっている。さらに、漢字を単体で習得するだけでなく、文章の中で適切に活用できるよう、文脈に応じた語彙力の強化を目指していく。算数では、3桁×3桁などの計算問題においてケアレスミスが見られた。図形分野の理解は進んでいるものの、計算過程や単位換算において丁寧さに欠ける傾向がある。今後は、体感できる活動を取り入れ、単位換算や実測の経験を通して量感を養う指導を継続していく必要がある。	
思考・判断・表現	低学年から積み重ねてきた基礎学力を土台として、学年の進行とともに思考力・表現力が伸長している。「なぜか」を問う対話的な学びが、自分の考えを筋道を立てて論理的に構成する力の育成につながっていると考えられる。国語では、文章から必要な情報を的確に読み取り、自分の考えをまとめて表現する課題において、当初は何を書けばいいのかわからず戸惑う様子が見られたが、学年が上がるにつれて粘り強く思考を重ねる姿勢が育ち、無回答は減少している。算数では、既習事項を組み合わせて複雑な図形の面積を求めることができるようになり、理科では実験結果をもとに法則性を見出すことができた。根拠をもとに考えを組み立てる論理的思考力が着実に育っている。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	・新出漢字を学習する際、漢字の意味をどらえ、その漢字を用いた言葉や文を考え、練習し、定着を図った。 ・全学年、読書ファイルを作成し、100選リストを活用した読書活動が進められている。また、図書ボランティアの読み聞かせや図書委員会による読書推進活動を行い、語彙力や表現力の育成を図っている。 ・個に応じた基礎学力の定着のため、ドリル学習やPCを活用した個別ドリル学習を実施している。	変更なし
思考・判断・表現	A	・各教科での活動を通じて、根拠をもって自分の考えを表現する力が育ってきている。特に、話し合い活動や意見の作成、総合的な学習の時間等、探求的な学習での発表等において、自分の意図を明確に伝えようとする様子が見られた。 ・さらに、データを読み取る視点を意識しながら、自分の言葉で表現できるよう、PCの活用や協力的な学習等、授業の工夫改善を図っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)